

I 学校教育目標

II 前年度に残された課題

III 本年度の重点課題

IV 来年度に残された課題

①オンライン学習の充実。
②読書活動の習慣化と活性化。
③学校運営協議会を中心とした地域と学校の在り方を深化させ、地域学校協働活動を発展させる。
④家庭学習の定着。
⑤教職員の働き方改革。

①伝統文化に触れる学習の充実
②ICT環境を活用した学習の充実
③豊かな心を育む読書活動の充実
④体力向上を目指した体育活動の充実
⑤家庭や地域と共に歩む学校づくり

①オンライン学習の充実
②読書活動の習慣化と活性化。
③地域学校協働活動の定着。
④家庭学習の定着と充実。
⑤教職員の働き方改革。

「1」(重点課題番号)	[2]具体的達成目標と評価指標		[3]自己評価		[4]外部アンケートの分析		[5]自己評価		[6]学校関係者評価	
	具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化	公表日	中間評価		児童生徒アンケート		保護者アンケート		最終評価(成果と課題)	
			評価日	実施日	実施日	実施日	評価日	課題の改善策等	評価者	8人
			公表日	公表日	公表日	公表日	公表日	公表日	評価日	3月2日
	① ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 方法 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	10月23日	<input type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他	10月11日 10月14日	1月24日 3月24日	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	1月24日 3月24日	<input type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他	2月22日 3月24日	3月2日 3月24日
①	・作法教室・茶道教室の実施(学期に2回)(小) ・茶釜作り体験(中1)の実施 ・伝統音楽(琴、三線)学習の実施(中) ・老人クラブとの交流(昔話、昔遊び、グランドゴルフ) ・カルタ大会や百人一首大会など和室の有効活用(小・中)	A	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、作法・茶道教室は1学級を2グループに分けて実施(小)。 ・修学旅行の行き先が沖縄から信州方面に変更になり、さらに徳島・兵庫方面になった(中)。 ・老人クラブとの交流が再開した。	・児童アンケートによる伝統文化への興味関心において、全校平均で85%が肯定的な意見であった。 ・中学校では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、体験学習を中止としたので、アンケート項目から削除した。	・小学校における伝統文化への興味関心において、80%の肯定的な意見であった。	A	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続いたことにより、予定していた学校行事や活動が制限されたが、「学びを止めない」を合言葉に、感染対策を工夫しながら「今できる」教育活動を推進した。 ・伝統文化に関する学習については、保護者や地域の方々に協力をいただき、学習の効果が高い。	・新型コロナウイルス感染症の感染対策を取りながら、さらなる充実を図りたい。 ・小中一貫教育校としての系統だったカリキュラムを整備する。	・生駒北小中学校の特徴的な取り組みとして、今後も継続して欲しい。 ・コロナ禍であるが、老人クラブからの申し出もあり、以前の交流が再開できつつある。	
②	・電子黒板、プロジェクター等を活用した授業展開 ・NHKforShchoolの活用 ・調べ学習における端末の積極的な活用 ・学校行事の発表等の児童生徒によるプレゼンテーションの実施 ・eライブラリー、ロイロノートを活用した学習の充実	A	・市教委キャリアプランナーの尾崎氏に依頼し、小中ともに充実したオンライン授業を実施している。 ・エバンジェリストによる職員研修の実施。 ・授業でも前向きにクロムブックを活用している。	・児童アンケートによるICT活用に関する項目では、全校平均で72%が肯定的な意見であった。 ・中学校では、全国学力・学習状況調査結果によると、ICTを活用した授業への興味を持つ生徒が8割以上であった。	・ICT活用に関して積極的な使用について、肯定的な回答が98%と高いものであった(小)。 ・家庭内で「何かしらのルールを設けている」と回答した割合は80ポイントであった(中)。	A	・従来の電子黒板を利用したICT教育の推進に加え、一人一台のタブレット端末導入により、興味・関心の高まりと学習意欲の向上につながっている。	・GIGAスクール構想に基づくタブレット端末の活用促進と、それに伴う授業改革。 ・ICT機器の活用増加に伴う情報モラル教育の充実。 ・タブレット端末を活用した家庭学習の充実。	・ICT機器を活用したオンライン授業で、他校との交流に取り組んでいることに肯定的である。 ・授業参観をした時に、児童生徒がタブレット端末を使いこなしていることに驚いた。	
③	・学校司書や読書ボランティアによる読み聞かせの実施(小) ・ビブリオバトルへの参加(中) ・保護者向け貸出の実施(学期に2回)	B	・学校司書や読書ボランティアによる読み聞かせを定期的に行い、児童の興味関心を持たせている(小)。 ・市内ビブリオバトルには、全校生徒で取り組んでいる(中)。 ・朝の読書の時間を設定している。	・家庭での読書習慣のある児童の割合は、全校で62%であった(小)。 ・図書館の利用の割合は54ポイントで、例年と同じく低かった。また、「よく読書をした」と回答した生徒の割合は60ポイントであった(中)。	・小学校では、家庭での読書に関する項目は40ポイントを切る低い結果であった。 ・中学校では、「子どもはよく読書している」と回答した割合は60ポイントである。	B	・本の読み聞かせやビブリオバトルなど、読書につながる取り組みは一定の成果を上げている。今後も継続していく。しかし、これらの取り組みが読書習慣の向上につながっていない現状と課題がある。 ・今年度は「上武文庫」への寄贈が多く、児童生徒の読書量が向上した。	・図書館利用を工夫した授業。 ・読書活動から生まれる取組の推進。(読書感想文、ビブリオバトル、中学生の読み聞かせなど)	・特に中学校では、読書をしない理由として、スマホ等によるゲーム依存の問題が考えられる。 ・図書室の広さときれいに驚いた。保護者にも貸出しをして欲しい。	

④	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝の体操」、「うきうきタイム」の取り組みの推進(小) ・学習カードなどの活用による学習意欲の向上(小) ・準備運動の充実(小・中) ・耐寒かけ足やかけ足納め会の実施(小) ・部活動の再編による活動の活性化(中) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会での体操の実施(小)。 ・耐寒駆け足を体育授業で実施(小)。 ・保健体育における準備運動や基礎運動、体力向上の充実を図る(中)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外での遊びに関する質問では、65%が肯定的な回答であった(小)。 ・部活動や生徒会、委員会活動への積極的な取り組みについては、80ポイントの肯定的な回答であった(中)。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝の体操」や「うきうきタイム」、朝や中休み、昼休みの外遊びの習慣づけなどで、運動に対する興味・関心が高まっている。そのことが、中学校での部活動への積極的な参加につながっている。 ・小学校の教員が、中学校の体育と音楽で乗り入れ授業を行い、連続性・系統性がある教科指導を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間で簡単に取り組める運動を取り入れながら、体を動かすことの楽しさを実感させる。 ・部活動の再編を進めながら、生徒の活動意欲の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休日など、外で遊ぶ子どもの姿が見られなくなっている。家の中のゲームなどが、子どもの遊びの中心になっている。 ・部活動の現状や再編について、課題が多いように思う。部活動の地域移行について、前向きに検討すべきである。
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクール(学校運営協議会と地域学校協働活動)の組織づくりと推進 ・育友会総会、役員会での情報発信(学期に1回) ・学校だよりによる情報発信(毎月) ・ホームページとTwitterによる情報発信 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、育友会活動の縮小と自粛。 ・学校だよりの自治会への配布。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目なし。 ・家庭との連携について96ポイントの高い評価であった(小)。 ・学校は、家庭との連絡をきめ細かく行っている項目について、78ポイントの肯定的な評価である(中)。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域との連携は一定の成果を上げている。さらに、充実させたい。 ・コロナ禍において、学校から保護者への連絡メールが重要な役割を担っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の設置や、地域学校協働本部による連携や協働の推進。 ・タブレット端末を活用した情報提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターを中心に、地域学校協働活動を定着・発展させて行く。 ・夏の除草作業を、ボランティアを中心にした取組に変更する。